

## カゼインキナーゼ I $\delta$ ラット、組換え

Cat. No. NATE-0140

Lot. No. (See product label)

### はじめに

**説明** ケースインキナーゼ1ファミリーのタンパク質キナーゼは、ほとんどの真核細胞タイプにおけるシグナル伝達経路の調節因子として機能するセリン/スレオニン選択的酵素です。CK1アイソフォームは、Wntシグナル伝達、概日リズム、転写因子の核-細胞質シャトリング、DNA修復、DNA転写に関与しています。

**別名** カゼインキナーゼI $\delta$ ; カゼインキナーゼI; CK-I $\delta$ ; CK-I; 非特異的セリン/スレオニンタンパク質キナーゼ; タンパク質ホスホキナーゼ; タンパク質セリンキナーゼ; タンパク質セリン-スレオニンキナーゼ; タンパク質-セリンキナーゼ; セリンキナーゼ; セリンタンパク質キナーゼ; セリン (スレオニン) タンパク質キナーゼ; セリン特異的タンパク質キナーゼ; セリン/スレオニンタンパク質キナーゼ; スレオニン特異的タンパク質キナーゼ

### 製品情報

種	ラット
由来	大腸菌
形態	解決策
分子量	mol wt 41.8 kDa
純度	> 90% (SDS-PAGE)
活性	1,000-3,000 ユニット/mg タンパク質
緩衝液	20 mM HEPES pH 7.5、1 mM DTT、1 mM EDTA、0.1% CHAPS、250 mM NaCl、20 $\mu$ g/ml アプロチニン、50% グリセロールの溶液。
代謝経路	細胞周期、特定生物系; 細胞周期、分裂期、特定生物系; セントロソーム成熟、特定生物系; サーカディアンリズム-哺乳類、特定生物系; サーカディアンリズム-哺乳類、保存された生物系; G2/M遷移、特定生物系; ギャップジャンクション、特定生物系
機能	ATP結合; ATP結合; 糖タンパク質結合; ヌクレオチド結合; ペプチド結合; リン酸化タンパク質結合; タンパク質結合; タンパク質キナーゼ活性; タンパク質キナーゼ活性; タンパク質セリン/スレオニンキナーゼ活性; タンパク質セリン/スレオニンキナーゼ活性; タウタンパク質キナーゼ活性; 転移酵素活性、リン含有基を転送
単位定義	1ユニットは、30°C、pH 7.5でATPから $\alpha$ -カゼインへの1 nmolのリン酸の移動を1分あたり触媒します。

### 使用法とパッケージング

**調製方法** CK-I $\delta$  $\Delta$ 317は、N末端触媒ドメインのアミノ酸1-317からなるCK-I $\delta$ の切断型です。

### 保管・発送情報

**安定性** -20°C